

森裕悟 堂々の準優勝 世界学生馬術大会 馬場馬術の部で



▲喜びの森裕悟

2003世界学生馬術大会が9月11日から14日までイタリア・ジェノバで行われ、森裕悟(商2・関東第一高)が馬場馬術で見事準優勝に輝いた。日本代表の団体は3位。

今大会は貸与馬形式(与えられた馬で競う試合)。森は本来馬場馬術専門の騎手ではないが「夏合宿で富沢健悟監督から馬場馬術の指導を重点的に受けていたことが良かった」と言うように、メリハリのある手綱捌きで予選を順調に勝ち進んだ。そして決勝戦。世界屈指の馬術国・ドイツの選手と

美技を競い奮闘したが、わずかの差で惜しくも首位を譲った。

試合後「自分が認められたことがうれしい。日本が世界に通用することも実感出来た。この経験を生かし、細かい点を直していきたい」と今後の抱負を語ってくれた。(山室綱寛・文3)

【ニュース専修10月号12面】

佐藤浩貴が活躍 バスケ・アジア選手権



▲佐藤の豪快なシュート

男子アジアバスケットボール選手権(兼アテネ五輪予選)が9月23日から10月1日まで中国・ハルビンで行われた。佐藤浩貴(経営4・相洋高)が日本代表12選手のうち、ただ一人の大学生として、全7試合中4試合に出場。12得点・10リバウンドと、得意のリバウンドでチームに貢献したが、日本代表は6位となりアテネ五輪の出場権を逃した。

佐藤は「オフェンスリバウンドが取れ、自分の仕事が出来たと思います。これからは、06年の世界選手権に出場できるよう努力していきたいです」と試合を振り返り、「リーグ戦のさなか、将来のために送り出してくれた新関光一監督に感謝しています。スタッフ・メンバーにも迷惑をかけたので、チームのため、専大のため、恩返しをしたい」と照れながらも胸のうちを語った。(山室綱寛・文3)

【ニュース専修10月号12面】

男女とも ただいま首位 バスケットボールリーグ戦



▲波多野和也(経営3)のシュート

関東大学バスケットボールリーグ戦(男子)が9月6日から代々木第2体育館ほかで行われており、専大は10月6日現在、6勝2敗で日体大とともに首位に立っている。

中大、法大、大東大に5勝1敗と順調に白星を重ね、前半戦のポイントとなる早大戦(10/4、5)。第1戦は一進一退の攻防の末84-85で惜敗。2戦目もなかなかペースがつかめずにいたが、「試合の勝敗を左右するのはリバウンドだ」と語る新関光一監督の言葉通り、リバウンドからシュートが決まり出すとリズムが良くなり、70-69で雪辱を果たした。(井上寸子・文2)

女子も初優勝へ向けて好位置につけている。9月7日から始まった関東大学女子学生バスケットボールリーグ戦で8勝2敗(10月5日現在)で日体大と並び首位をキープしている。

9月27日の拓大戦は今季一番の快勝だった。専大はゾーンディフェンスによる堅守からペースをつかみ、着実に得点を重ねる。試合前、児玉茂監督が課題として挙げたリバウンドでも、長南真由美(経営3・山形商高)、岩崎真歩(経営2・実践学園高)を中心にゴール下を支配し、78-48で勝利した。翌週の筑波大戦は2戦とも逆転で勝ち、勝負強さを見せた。

3年連続準優勝の専大。最終週(10/18、19)に昨年の王者・日体大との大一番を迎える。(久我智也・文1)

【ニュース専修10月号12面】

グリーンマシーン 爆走3連勝 アメフト・リーグ戦



▲雨の中で行われた筑波大戦(9月21日)

関東大学アメリカンフットボール1部リーグ戦で専大は開幕から3連勝とここまで絶好調。

9月21日、大井第2球技場で筑波大戦が行われた。台風の影響で強い雨が降りしきる中でのスタート。前半、相手のミスからチャンスをつかみ、後藤亨輔(商3・足立学園高)のTDで先制。その後FGの成功で10-0とリードして前半を折り返した。後半、ピンチの場面はあるものの守備陣が踏ん張

りFGの3点に抑える。終盤、岡本衛(法2・崇徳高)が54ヤードの独走TDでダメ押しの追加点を挙げ、17-3と終始リードを奪ったまま試合終了。

続く10月4日、同競技場で行われた中大戦は照明設備に煌々と照らされたグラウンドのキックオフ。前半は一進一退の攻防が続く。先制点を許すものの10-10と振り出しに戻って前半終了。後半、岡本を中心としたアグレッシブな攻撃と、巧みなパスで貴重なTDを決める。このリードを守備陣が抑え、17-10の接戦をものにした。

試合後、平野恭雄監督が「攻守のバランスがとれたチームになってきた」と言うように、攻守のリズムは試合ごとに噛みあってきている。リーグ戦残り3試合も、グリーンマシーンの活躍から目が離せない。(稲田礼子・法2)

【ニュース専修10月号12面】

箱根を駆け抜けろ 10月18日に箱根駅伝予選会



▲予選に向け練習に励む選手たち

「第80回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)」の予選会が10月18日、箱根町・芦ノ湖(16.3キロ)で開催される。

今年60回目の本選出場を果たした専大だが、本大会では上位10校に与えられるシード権を逃し、予選会からの出場。出場権を得るには、上位10人の合計タイムで6位以内、または関東インカレの成績を換算したポイントと合計タイムを併用して決める残り3枠に入ることが必要となる。厳しい展開が予想されるが「今年のチームは積極的」

と本多幸希主将(経営4・国見高)が語るように、元気のいい下級生に上級生がうまくかみ合えば、大手町のスタートラインが見えてくるだろう。(染谷智子・文2)

【ニュース専修10月号12面】

85kg未満級 池山が優勝 全国学生相撲個人体重別



▲左から池山、中西、大平

10月5日、全国学生相撲個人別体重別選手権が靖国神社で行われ、専大からは9月の東日本学生選手権で上位入賞した3人が出場。85kg未満級で池山辰徳(商2・鹿児島実高)が優勝、135kg以上級では中西健二(経営3・目黒学園高)が惜しくも準優勝、135kg未満級で大平健夫(経済3・鹿児島商高)が3位と、好成績を収めた。

試合後、「練習の成果が出ました。来年も優勝を目指します」(池山)、「決勝で勝ちたかった。次はインカレで上位を狙っていきたい」(中西)、「ここの一番という所で力を出せなかった。今以上に頑張っていく」(大平)と、三者三様に抱負を語った。(小平百子・文2)

【ニュース専修10月号12面】

1部復帰へ好スタート ラグビーリーグ戦(2部)



▲須田康夫(商2)の突進

ラグビーの関東大学リーグ戦(2部)が開幕、専大は国際武道大、白鷗大を降し、1部復帰へ順調なスタートを切った。

【対国際武道大・9月28日(74-0)】前半1分、西真(商2・大阪工高)の先制トライを皮切りに50点を挙げた。後半フォワード、バックスー一体となつての奮闘もあり、完封した。

【对白鷗大・10月5日(72-12)】前半3分に西のトライなど、36-0で折り返す。後半は守備の乱れを突かれ、2本のトライを許すが終盤に渋谷嘉広(商1・常総学園高)の連続トライで勝負を決めた。(川本麻美・文2)

【ニュース専修10月号12面】